抄 録

本號抄録擔當者(イロハ順)

巖 眞 教	岡 田 正 弘	金 森 虎 男
川 上 政 雄	高 橋 新 次 郎	藤 田 恒 太 郎
澁 谷 眞 一	檜 山 健 兒	

基礎醫學

比較解剖學的ニ觀タル人類齒牙形態ト榮養物トノ關係

Die menschlichen Zähne in ihrer morphologischen Beziehung zur Nahrung
vom vergleichend anatomischen Standpunkt. von R. Lehne, Vjs. f. ZH. H.
1, 1930

吾々人類ノ榮養問題ハ難解ナル點ニ於テ、他ノ動物ニ其比ヲ見ナイノデアルガ、人類ニ飼育サル、家畜モ亦自然ニ戾ル影響ヲ受ケテ變性退化ノ途ヲ辿リツ、アル事ハ爭ハレナイ事實デアル。著者ハ自然界ヲ觀察シテ從來餘リ注目サレナカツタ法則ヲ紹介スル事ヲ其目的トシテ居ル。例ヘバ野猫ハ動物園ニテ馬肉或ハ牛肉ヲ以テ充分ニ飼育サレテモ、食肉動物デアルニ拘ハラズ、忽チ衰滅スル。此動物ガ生存スルニハ他ノ榮養物が必要デアツテ鼠、小鳥、鼯ノ如キ小動物ガ其食糧ヲナシテ居ルノデアル。

著者ハ廣ク動物界ヲ通觀シテ各々食物ノ種類ト齒牙ノ形態トノ間ノ動カス可ラザル一定ノ關係ヲ例證シ、最後ニ人類ハ齒牙ノ形態カラシテ榮養上如何ナル系統ニ屬スルカラ歸納シテ居ル。哺乳動物デハ一般ニ食肉類、反芻類及ビ齧齒類ガ分類サレテ居ルノデアルガ、食肉動物ノ齒牙ハ項ガ尖銳デアルノガ特徴デアツテ、此特徴ハ原始的ノ齒牙ニ遡ツテ魚類ノ鰐ノ齒牙ニ其起原ガ見出サレ、多數ノ海獸ハ専ラ肉食ヲ營ミ、從テ共通ノ形態ヲ呈シ、海豚及ビ鯨ノ類デハ陸棲哺乳動物ガ異齒型(Heterodontie)ヲ呈スルニ反シ、退化性變態ニ由リ同齒型(Homodontie)ヲ呈シテ居ル。

陸棲動物デハ食肉動物デアツテモ、純食肉ノモノナク、犬ノ如ク雜食性(Omnivorismus)ニ傾キ、或ハ熊ノ如ク元來食肉動物デアツテモ食草、食果、食蟲等ノ諸性(Herbi, Frugi, Insektivorismus)ニ傾ク時ハ夫レニ應ジテ齒牙ノ形態ニモ變態ガ行ハレ、雜食動物トシテ知ラレテ居ル野猪ハ丘齒類(Bunodont)トシテ特有ノ齒牙ヲ有シテ居ル。

人類ノ齒牙ハ類人猿ト同一ノ系統ニ屬スキ形態ヲ呈シテ居ルノデアルガ「オラングウータン」「ゴリラ」ノ如キハ季節ニ應ジ野生ノ果實ヲ専ラ食糧トシテ生活シテ居ル。此等ノ類人猿ハ純食果動物ト認メラレ人類ノ齒牙ヲ之等純食果動物ノ齒牙ニ比較スル時ハ、其榮養の性質ニ於テ人類モ亦純食果動物ト認メナケレバナラヌト結論ヲ與ヘテ居ル。

齒牙ノ齲蝕及侵蝕ニ關スル蓐酸鹽ノ由來並ニ其臨牀的證明

The sources and clinical manifestations of the oxalates as related to dental caries and erosion

By Bernard B. Badanes. The Dental Cosmos Vol. LXXII, No. 5 May 1930.

蓐酸「カルシウムガ」唾液成分トシテ特ニ意義アルハ其溶解性少キト屢々齒石中ニ結晶トシテ見出サル、ガ爲デアル。蓐酸「カルシウム」ハ唾液以外種々ノ體液ニモ含マレ尿中ニモ常ニ少量ノ蓐酸ノ排泄ヲ見ル。是等ノ一部ハ食物中ノ蓐酸ニ由來スル事ハ勿論デアルガ、他ハ體內デノ物質代謝ノ結果生ズルモノナル事ハ蓐酸ヲ含有セザル乳汁ノミデ飼養シ或ハ饑餓ノ狀態ニ置クモ尙尿中蓐酸ノ排泄ヲ見ル事實、及黃疸症或ハ糖尿病ノ如キ病的狀態ニ於テ所謂蓐酸尿ノ存在スル事實等ニヨリテ明デアル。而シテ蓐酸ハ體內ニ於テ恐ラク含水炭素・脂肪・蛋白質ノ何レヨリモ生ジ得ルモノデアツテ、殊ニ蛋白分解ニヨリテ生ズル「アミノ」酸ナル「アラニン」ノ如キハ體內ニ於テ「メチールグリオキサル」・乳酸・葡萄糖ヲ經テ蓐酸トナリ更ニ酸化セラレテ炭酸瓦斯ト水トニ分解スル。然シ其分解ハ必シモ完全デハナク或條件デハ中間代謝ノ或階程ニ止ル事ガアル。試験管内デハ「アラニン」ガ「メチールグリオキサル」ニ分解スル反應ハ酸ニヨリテ促進セラル、モ、後者ヨリモ乳酸ヲ發生スルニハ「アルカリ」ニ依リ遊離酸ヲ直チニ中和スルヲ要スル。齲齒空洞中ニ存スル乳酸ヲ「アルカリ」性ノ齒磨粉ニ依リテ中和スル場合ノ如キモ普通考ヘラル、ガ如ク之ニ依リテ醗酵ヲ停止シ得ルモノデハ無ク却テ更ニ醗酵ノ過程ヲ進ムルニ都合ヨキ狀態ヲ與フルモノナル事ハ著者ガ最近述べタ所デアル。

更ニ乳酸ヨリ發生スル糖モ或條件デハ酸化分解サレズニ其儘止マル事ガアル。著者ハ起牀後齲齒ノ周圍ハ酸味ヲ覺エルト云フ患者ノ朝食前ノ唾液ニ葡萄糖ノ存在ヲ確メタガ此患者ノ午後ノ唾液ハ糖ヲ缺ギ或ハ又糖尿病患者ノ唾液ニモ糖ヲ證明スルヲ得ナカツタ。